

平成29年度

学校自己評価報告書

平成30年8月

学校法人日本コンピュータ学園

東北保健医療専門学校

■平成29年度 学校自己評価について

学校法人日本コンピュータ学園 東北保健医療専門学校は、東北における介護・医療・福祉の専門職を養成する教育機関として、平成23年に開校し、病院・施設・地域との連携を強化し、職業実践的な教育により、業界の最前線で活躍できる医療福祉従事者の育成を目指しております。

本校では、開校以来独自の評価項目に基づき、学校自己評価に取り組んでおります。さらに、平成24年度からは、より良い自己評価を目指して、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考として評価項目の改良、拡充を行い、現状・課題の把握ならびに改善策の検討・実施を行っております。また、評価にあたっては、教員の自己評価、学生アンケートなども踏まえて行っております。今後は、この学校自己評価の結果を生かし、更なる「教育の質の向上」を図ってまいります。

1、対象期間

平成29年4月1日～平成30年3月31日

2、実施方法

- (1) 学内に「学校自己評価委員会」を設置し、委員会を中心に教職員一同により評価を行っております。

委員会構成：委員長 校長

委員 法人事務局部長、就職センター室長、進学相談室室長
教務部長、教務課長、総務課長代理

- (2) 評価は「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に行っています。
- (3) 評価は、年一回年度末に行います。
- (4) 評価結果の公開は、本報告書をホームページに掲載することにより行います。

3、自己評価の項目

自己評価は、以下の10項目を実施します。

- (1) 教育理念・目的
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

4、評価項目に対する評価

評価は、4～1の点数で記載します。

評価 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

■基準1 教育理念・目的

教育理念

1. 基本的資質の修養
品性を磨き、自己の人格形成に努めること
2. 知識と技術の体得
理解を伴った正確な技術の訓練を継続すること
3. 調和のとれた心の鍛錬
心の平静を保ち、前向きな姿勢で取り組めること

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	理念・目的・育成人材像は定められているか	4
b	学校における職業教育の特色を示しているか	4
c	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
d	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
e	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

(2) 状況および課題と改善策

- a. 理念・目的・育成人材像は明確に定め、学生便覧・学修要項(運営方針・教育計画)・入学案内・ホームページで明示している。
- b. 職業実践専門課程における教育課程編成委員会や学科ごとに、業界の現状を見定めながら、カリキュラム内容を検討している。また、各科の職業教育の特色は、入学案内書・ホームページ・体験入学会・オープンキャンパスで広く周知し、明確にしている。
- c. 少子高齢化や労働力減少を見据えて、介護福祉科では留学生受け入れの準備を整えるなど、平成30年度からは宮城県より認可をうけ、計画していた歯科衛生士の養成(歯科衛生科)を開始している。
- d. 教育理念や育成人材像については、体験入学会やオープンキャンパス、入学時オリエンテーションで学生便覧や学修要項を用いて、学生・保護者に周知している。
- e. 地域・病院・施設の中で、組織・チームの一員としてどうあるべきか方向づけることで、業界ニーズに対応している。

■基準2 学校運営

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
b	事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
c	運営組織や意思決定機能は、明確化され、有効に機能しているか	4
d	人事、給与に関する制度は整備されているか	3
e	各部門の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
f	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
g	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
h	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

(2) 状況および課題と改善策

- a. 学則の目的・基本方針及び職業実践専門課程の目的に基づき、学校運営方針を定めている。
- b. 学校法人の平成30年度事業計画に基づき、前年度の評価も参考に、平成30年度運営方針を策定している。
- c. 運営組織や意思決定機能は明確化されている。
- d. 人事、給与に関しては、法律改正に合わせた見直しを適宜実施し、整備している。また、今年度より完全週休2日制を導入し、今後も運用面で各部門との調整を図りながら、イベント運営や業務スケジュールを工夫・改善していく。
- e. 各部門の組織は整備されている。各部門内での意思決定システムは、今後も必要に応じた見直しを継続していく。
- f. 学校法人及び学校に必要な規定は整備され、官公庁及び関係団体に関する法令や基準を遵守し適正に運用している。
- g. ホームページ(入学案内・ブログ・職業実践専門課程の基本情報など)や体験入学会・オープンキャンパスなどで教育活動を広く情報公開している。引き続き、学校の特色を活かした教育活動内容を発信していく。
- h. 出席管理については、業務が効率化され、学生の修学状況の把握ができるようになった。さらに、運用管理が一元化できるシステムの構築を進めていく。

■基準3 教育活動

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されている	4
b	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
c	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
d	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
e	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
f	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
g	企業や専門家の意見、評価を受け、より実践的な能力を修得する機会が整備されているか	4
h	授業評価の実施・評価体制はあるか	3
i	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
j	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
k	必要な場合は業界と連携して、人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
l	関連分野における先端的な知識・技能等の修得や指導力の育成など、教員の資質向上のために研修等の取組が行われているか	3
m	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

(2) 状況および課題と改善策

- a. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針を策定している。学校を開設して7年経過しており、今後は適宜再検討を進めていく。
- b. 理学療法科・作業療法科(修業年限3年)、介護福祉科・医療秘書科・医療情報管理科(修業年限2年)の教育到達レベルや学習時間の確保は、学科ごとにシラバスや時間割などで明示している。

- c. 指定規則及び資格取得に必要な条件に基づき、学科ごとに、カリキュラムは体系的に編成している。
- d. 各科及び教員が、実践的な職業教育の視点に立ち教育方法を工夫している。特に実技科目では、複数教員担当制にして、きめ細かく学生に対応できるよう工夫している。今後も、キャリア教育の視点に立った教育課程や教育方法を工夫・開発していく。
- e. 学科ごとに教育課程編成委員会を年 2 回実施し、現場の状況を踏まえたやアドバイスをいただくことで、カリキュラム・教育内容に反映し、適切に見直している。
- f. 理学療法科・作業療法科は 3 年計画、介護福祉科は 2 年計画のもと、実習を実施している。さらに、学内の実技実習等の積み重ねやビジネスマナーの修得についても体系的に実施を検討していきたい。医療秘書科・医療情報管理科は、見学実習を実施することで職業教育を強化していく。
- g. 各科の実習体系に基づき、実習指導者や事業所責任者の評価を受けることで、より実践的な能力を修得する機会を設けている。さらに、その内容について、教育課程編成委員会や臨床実習指導者から意見をうかがい、集約するなど積極的に取り組んでいる。
- h. 授業評価(学生評価)は前期・後期に実施している。学生評価項目については授業の目的－内容－効果に即して構成されているか検討する必要があり、教員と学生の相互関係における学習効果を促進できる内容に改善するとともに、評価体制全般の見直しを進めていく。
- i. 成績評価・単位認定の基準は細則のなかで明確にしている。今後さらに、教員ごとにばらつきが生じないよう合否基準を作成していく。
- j. 国家試験を受験する学科は、カリキュラム内で国家試験対策を実施することが困難なため、課外授業として別枠で国家試験対策を実施している。担任を中心とした指導体制を取っており、一部授業構成についても、国家試験・資格試験を視野に入れた取り組みをしている。今後さらに、成果の上がる効率のよい体系的なカリキュラムの構成の整備を図っていく。
- k. 主に専門科目は学内の専任教員が担当しているが、人材育成に向けて必要性がある場合は外部講師に依頼することで適切に対処している。
- l. 教員の資質向上・指導力向上のための学内研修を年 3 回実施している。さらに、専門性の高い最先端・知識・技能の修得のための研修への参加を促進していく。
- m. 教員のための資質向上・指導力向上のための研修のほか、今後は、能力開発として教職員全員に対する研修制度を整備していく。

■基準4 学修成果

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	就職率の向上が図られているか	3
b	資格取得率の向上が図られているか	3
c	退学率の低減が図られているか	4
d	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
e	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

(2) 状況および課題と改善策

- a. 就職率向上のため早期意識づけを行うなど、担任と就職センター担当者が連携し、きめ細かい支援・指導を行ったが、国家試験の合否に不安を持った学生が就職活動を躊躇するといった傾向が多少見受けられた。そのことが学校全体の就職内定率に少なからず影響することを勘案すると、今後は、学校として対応や取り組みを検討していく。
- b. 理学療法科・作業療法科は東北地区の3年養成校としては良い結果を残すことができたが、さらに合格率向上のための対策を講じる必要がある。また、介護福祉科は離職者訓練生も含めて、昨年度初めて学生全員が受験し、非常に優秀な結果を残すことができた。
今年度は国家資格取得を目指す3学科共に、合格率100%を目指して、学科単位・学校全体で対策を講じていく。
医療秘書科・医療情報管理科は取得すべき資格試験の年間スケジュールを明確にすることで、学生の資格取得率は向上した。
- c. 学校全体として退学率は昨年より下がり、一定の成果があった。学生面談を入学直後から実施し、早期から学習への取り組みに助言するなど、学生の状況把握に努めた。特に、出席管理については、業務効率化により、学生の修学状況の把握が可能になったため、早期対応の成果が出ている。
- d. 現状では各教員が、個別に卒業生の動向を確認しており、今後は、学校として卒業後の活躍を集約・把握していきたい。その事前準備として卒業生の来校時や幹事会の際に、事前アンケートを実施し、現状を把握している。さらに同窓会総会でもアンケートを実施する予定である。
- e. 事前に行ったアンケート調査の内容を踏まえ、同窓会幹事会で出た意見も活用するなど学校として今後も教育活動の改善を図っていく。昨年度の例としては、コミュニケーション演習を理学療法科・作業療法科合同で実施することができた。

■基準5 学生支援

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
b	学生相談に関する体制は整備されているか	4
c	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
d	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
e	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
f	学生の生活環境への支援は行われているか	4
g	保護者と適切に連携しているか	4
h	卒業生への支援体制はあるか	4
i	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
j	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

(2) 状況および課題と改善策

- a. 就職センターに専任の職員を配置し、就職支援プログラムをもとに教員と就職センター職員が連携して、計画的に指導を行っている。
- b. 学生サポート室を設けて相談員、看護師、カウンセラーを配置し、メンタル、学習、生活など担任と相談員が連携して各種相談に応じている。
- c. 特別奨学金制度、試験特待生、資格特待生、学費の分割納入など、いろいろな側面から経済的に支援する学校独自の制度を整備している。
- d. 保健室の常勤看護師が中心となり、学校医、カウンセラー、教員と連携しながら学生を支援している。さらに、学校として健康管理委員会を設置し、感染症対策や健康教育について体制を整備していく。
- e. 課外活動は、スポーツ大会、希望者によるボランティア活動など必要に応じて可能な限り支援を行っている。
- f. 教員が学生の状況に応じて、学生寮での生活、健康相談、生活指導、学習相談など多岐にわたって学生支援を行っている。
- g. 学生が欠席したり体調不良、または学習困難な状況の時には、保護者に連絡し、保護者と連携をとっている。さらに、今後は、連絡・連携の基準を明確にし、体制を整備していく。
- h. 同窓会をはじめ、理学療法科卒業生による症例検討会(在校生も参加)、卒業生の就業相談など支援は行っている。今年度は、同窓会総会をきっかけに、支援体制をさらに充実させていく。

- i. 社会人のニーズに応えるため、理学療法科卒業生による症例検討会の開催支援、技術指導、国試対策講座を実施しており、今後も、卒業生・就職先関係者からの意見を反映させた取り組みを推進していく。
- j. 介護福祉科教員を中心に、高校などのガイダンスに参加し高校生にわかりやすく学校説明をしている。歯科衛生科においても、担当教員が高校に出向き、進路指導教員や進路指導コーディネーターに学科についてや取り組み内容を説明することで積極的に情報提供することができた。また、体験入学会、春・夏のオープンキャンパス、宮専各主催の未来のお仕事体験の際に、キャリア教育・職業教育の取り組みを具体的に紹介している。

■基準 6 教育環境

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
b	学内外の実習施設、インターシップについて十分な教育体制を整備しているか	3
c	学生が自主的に学習するための環境が整備されているか	4
d	防災、防犯に対する安全管理体制は整備されているか	4

(2) 状況および課題と改善策

- a. 指定規則上の施設設備、備品は整備されているが、経年劣化や学生数の増加による必要設備・備品が増えてきている。情報系授業を実施できるよう、新たに教室にパソコンを完備したことは、学生に好評だった。
- b. 実習時間数等は規定を満たしている。実習施設数については、学生数の増加に伴い、常に確保が必要である。医療秘書科・医療情報管理科については、平成 30 年度より見学実習を実施予定である。
- c. 放課後を利用し、学科毎に教室を割り当てることで、自己学習やグループ学習、就職関連の準備など多くの学生が校内の教室を有効に活用している。また、学内で個別指導を受ける学生も非常に多くなっている。
- d. 防災訓練時の避難経路の在り方、避難方法の仕方など訓練実施後は必ず反省会をし、改善を図ることで体制は整備されている。今後は学校安全計画を含め、防災避難訓練の内容も見直していく。

■基準7 学生の受け入れ募集

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	学生募集活動は、適正に行われているか	4
b	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
c	学納金は妥当なものとなっているか	4

(2) 状況および課題と改善策

- a. 学生の募集広報活動における内容や説明については、実績を基に適切な判断材料を提供するよう配慮し、真実性、透明性をもった情報提供及び募集活動を行っている。入学希望者のニーズに合わせて、全学科におけるAO入学制度の導入や入学選考方法の見直し、学費支援制度の拡充、的確な入試情報等、募集要項に明記している。
- b. 教育内容や成果について、「入学案内」や「ホームページ」、「学校見学」などの広報活動のなかで詳細に説明し、最新の情報も随時発信している。また、教育実績、就職、資格取得状況については、教員と進学相談員(広報事業部)が情報を共有し、入学希望者に積極的に情報提供するとともに、本校教員が高等学校を訪問するなど、高校教員にも的確な学校説明を行っている。
- c. 学納金は、教育内容や教育環境、他校の学費水準に照らし妥当な額を評議員会・理事会において決定している。また、学費を含む、卒業までに必要な経費全てについて募集要項に明記することで、透明性のある学費案内・説明を行っている。

■基準8 財務

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
b	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
c	財務について会計監査が適正に行われているか	4
d	財務情報公開の体制整備はできているか	4

(2) 状況および課題と改善策

- a. ホームページに公開の財務諸表の通り、学園の財務基盤は安定している。今後も、学生数の確保を図り、継続して中長期的な財務基盤の安定に努めていく。
- b. 予算の編成及び執行は適正に実施している。

- c. 会計監査は、関連法規により、公認会計士及び監事により適正に行われている。
- d. 財務情報については、ホームページに「資金収支計算書」、「事業活動収支計算書」、「貸借対照表」を公開している。

■基準 9 法令等の遵守

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
b	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
c	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
d	自己評価結果を公開しているか	4

(2) 状況および課題と改善策

- a. 関連法令・施設設置基準を遵守し、適正な学校運営をしている。不明な点は随時監督官庁に問い合わせ、確認を取っており、適切に対処している。
- b. 規定に基づき、個人情報に関する誓約書や同意書を取り交わし、学生および教職員に周知している。また、臨床実習における学生の個人情報開示については、学生に十分に説明したうえで、同意書を受け取っている。なお、知り得た個人情報の利用は、利用目的や使用期間を定め適正に管理し、データ廃棄についても的確に実施している。
- c. 毎年学校自己評価を実施し、改善に努めている。さらに全教職員が認識し、評価基準に則り、プロセス評価と改善案の提示ができるよう体制を整備していく。
- d. 学校自己評価結果については、その内容を学校関係者に開示し、意見を集約することで、改善に向けて取り組んでいる。また、ホームページで公開もしている。

■基準 10 社会貢献・地域貢献

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
b	生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
c	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

(2) 状況および課題と改善策

- a. 介護人材確保事業等の宮城県の委託事業を実施した。また、隣接の仙台市シルバーセンターの仙台豊齢学園の学生との交流会も行った。
- b. 多くは実習先からの依頼により、学生にボランティア活動を紹介しており、依頼先との連絡調整は教員が支援している。今後は、学生主体で運営を促進していきたい。
- c. 宮城県委託事業の離職者等再就職訓練(介護福祉士養成業務)を平成 30 年度から再開し、介護人材確保事業として、進学相談および公開講座を開催している。

以上

学校法人日本コンピュータ学園 東北保健医療専門学校

〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院 1 丁目 3 番 1 号
